

# 期待される緑の学習

——小中学校に対するアンケート調査——

山口 重 男

## 調査のねらい

林業試験場では、平成2年度から実施している森林総合技術セミナーの一環として、児童・生徒及び一般道民を対象に森林・林業・緑環境についての知識を普及する森林教養講座を開講している。本調査はこの講座を開講するにあたり、小中学校の教育課程の中で「緑の学習」がどのように行われ、また今後どのように取り組もうとしているかを知るために実施した。

## 調査の対象と方法

【105市町村・1,421校を調査対象に】

平成元年9月に実施したこの調査は、全道46地区林業指導事務所がそれぞれの担当管内から、主に都市型の2～3市町村を選び、教育委員会を通じて、アンケート方式で行った。調査対象は105市町村（23市，79町，3村）で、これらの教育委員会が所管する学校は1,421校（小学校958校，中学校463校）である。

## 緑の学習の現状

【学習活動の現状と課題】

設問は、緑の学習の現状に関するもの4問と、林業試験場が開設する森林教養講座に関するもの7問とした。

なお、質問によっては回答のないもの、重複回答などがあり、数値は対象校数と合致しない場合がある。

◆問1 これまで緑の学習をしたことがあるか

小学校で約70%，中学校で約62%が何らかの学習をしており、1校当たりの回数は小中学校とも約3回、1回当たりの学習時間はともに3時間で、いずれも半日位の学習である（表-1）。

また、1回当たりの対象人員は、小学校150人、中学校120人である。

時期的には、野外学習が多いこともあって、春から秋にそのほとんどが実施されており、特に夏は休み中の行事として行われることが多い（表-2）。

表-1 緑の学習をしたことがあるか

| 区 分 \ 学校別    |        | 小学校 | 中学校 |
|--------------|--------|-----|-----|
| 緑の学習をしたことが   | あ る(校) | 575 | 227 |
|              | な い(校) | 248 | 139 |
|              | 無回答(校) | 135 | 99  |
| 回数/1校当たり(回)  |        | 3.1 | 2.8 |
| 時間/1回当たり(時間) |        | 3.0 | 3.0 |
| 人員/1回当たり(人)  |        | 150 | 121 |

一方、わずかではあるが、冬期間に実施しているところもあり、その1事例として、押し花などの作品発表会の実施があげられている。

◆問2 学習内容について

学習内容は、小中学校によって若干異なった傾向を示している。小学校では、「学校林などでの植樹実習」が、また中学校では、「登山やキャンプ」などが多い(表-3)。

なお、「各種の見学会」は修学旅行などの校外学習の一環として実施している。

表-2 実施時期(複数回答)

| 学校別<br>区分 | 小学校 |    |    |   |     | 中学校 |    |    |   |     |
|-----------|-----|----|----|---|-----|-----|----|----|---|-----|
|           | 春   | 夏  | 秋  | 冬 | 計   | 春   | 夏  | 秋  | 冬 | 計   |
| 校数(校)     | 61  | 47 | 36 | 2 | 146 | 41  | 41 | 18 | 3 | 103 |
| 割合        | 42  | 32 | 25 | 1 | 100 | 40  | 40 | 15 | 5 | 100 |

表-3 学習内容(複数回答)

| 学習内容            | 小学校 |      | 中学校 |      |
|-----------------|-----|------|-----|------|
|                 | 校数  | 割合   | 校数  | 割合   |
| 一般的な学習          | 328 | 34.2 | 100 | 21.6 |
| 葉箱かけ、きのご栽培などの実習 | 171 | 17.8 | 52  | 11.2 |
| 登山、キャンプなど       | 282 | 29.4 | 165 | 35.6 |
| 学校林などでの植樹や実習    | 332 | 34.7 | 24  | 5.2  |
| 各種の見学会          | 66  | 6.9  | 31  | 6.7  |
| その他             | 55  | 5.7  | 21  | 4.5  |

◆問3 学習ができなかった理由

これまで「緑の学習をしたことがない」と答えたのは、小学校248校(26%)、中学校139校(30%)であり、その理由は小中学校ともほぼ類似している(表-4)。

すなわち「時間が足りない」が最も多く、今後学習計画のなかにもどのように取り入れるかが課題である。次いで多い「学習の場がない」については、林業試験場などのほかに、地域においては道有林や市町村有林、森林公園などの積極的な利用が必要である。また、学校林の整備

や有効活用も今後の課題である。「教材がない」については、これまで作成された教本がいずれも全国的な内容のものが多く、配布の範囲も主として林業関係者にとどまっているなど、学校教育のなかでの活用は十分とはいえないことを示している。今後は森林・林業・緑環境に関した、総合的かつ地域性の高い、実践的な教材の整備が望まれる。「指導者がいない」については、林業試験場の林業専門技術員や研究員のほかに、現地に配置されている林業改良指導員の積極的な参加と、直接児童・生徒の指導にあたる教師に対しても知識や技術の普及が必要である。

なお、「その他」も高い割合となっているが、その理由は明らかではない。

◆問4 今後緑の学習を行うためには、どのような条件整備が必要か

問3の学習ができなかった理由と関連するが、教材の提供を望むものが最も多く、次いで学習場所の提供と指導者の派遣があげられている。

なお、「今後とも実施予定がない」とする小学校は100校(10%)、中学校は67校(14%)であった。

表-4 学習できなかった理由

| 理由      | 小学校 |      | 中学校 |      |
|---------|-----|------|-----|------|
|         | 校数  | 割合   | 校数  | 割合   |
| 指導者がいない | 34  | 10.4 | 18  | 9.6  |
| 教材がない   | 57  | 17.4 | 21  | 11.2 |
| 学習の場がない | 67  | 20.5 | 32  | 17.1 |
| 時間が足りない | 93  | 28.5 | 58  | 31.0 |
| その他     | 76  | 23.3 | 58  | 31.1 |

## 林業試験場に期待すること

### 【林業試験場には多くの期待が寄せられている】

これまでは、緑の学習がどのように実施されてきたかについての設問であったが、以下は、林業試験場がこれらの学習に参画した場合どのような要望があるかについて設問した。

#### ◆問5 林業試験場が緑の学習に参画することについて

小中学校とも「積極的に活用したい」、「必要な部分を活用する」が約96%を占め、ほとんどが林業試験場の参画を望んでいる（表-5）。

また、「不要」と「その他」が各2%を占めているが、「不要」の理由は、各学校の自主性にまかせるべきであるとしており、「その他」の理由としては、学習の内容が不明で回答ができないとしている。

表-5 林業試験場が緑の学習に参画することについて（複数回答）

| 項目 \ 学校別   | 小学校 |      | 中学校 |      |
|------------|-----|------|-----|------|
|            | 学校数 | 割合   | 学校数 | 割合   |
| 積極的に活用したい  | 208 | 21.7 | 89  | 19.6 |
| 必要な部分を活用する | 738 | 77.0 | 360 | 77.8 |
| 不要である      | 17  | 1.8  | 8   | 1.7  |
| その他        | 19  | 2.0  | 7   | 1.5  |

#### ◆問6 林業試験場に協力を得たいこと

緑の学習を実施するにあたり、林業試験場に何を期待するかと設問したところ次の3点に集約された（表-6）。第1は「教材や情報の提供」であり、各種テキスト類の作成のほかに、パネル、スライド、ビデオなどをはじめ、道内外の情報の提供である。第2は「講師などの派遣」であり、林業専門技術員や研究員のほか林業改良指導員、グリーンインストラクターなど幅広い内容となっている。第3は「施設利用」であり、実験林、実験・研修棟、研修宿泊施設などを開放して欲しいなどの要望である。

表-6 林業試験場の協力を得たいこと（複数回答）

| 項目 \ 学校別   | 小学校 |      | 中学校 |      |
|------------|-----|------|-----|------|
|            | 学校数 | 割合   | 学校数 | 割合   |
| 実験林など施設の利用 | 276 | 28.8 | 129 | 27.9 |
| 教材や情報などの提供 | 723 | 75.5 | 340 | 73.4 |
| 講師など指導者の派遣 | 342 | 35.7 | 154 | 33.3 |
| その他        | 4   | 0.4  | 0   | 0    |

#### ◆問7 緑の学習の進め方

林業試験場が緑の学習を実施する場合はどのような方法が望ましいかについて設問したところ「先生と一緒に指導をしてほしい」が64%で最も多い。次いで約24%を占める「教材の提供」については、一般の教育課程のなかでも幅広く利活用されるような教材の提供を望んでいる（表-7）。

また、「林業試験場が単独で指導」という回答は、夏休みなどで緑の少年団や子供会活動を対象とした場合である。

「その他」の意見としては、修学旅行などで学校が独自で実施するなどがあげられている。

表-7 緑の学習の進め方（複数回答）

| 項目 \ 学校別     | 小学校 |      | 中学校 |      |
|--------------|-----|------|-----|------|
|              | 学校数 | 割合   | 学校数 | 割合   |
| 教材の提供のみでよい   | 227 | 23.7 | 110 | 23.8 |
| 先生と一緒に指導     | 614 | 64.1 | 279 | 60.3 |
| 試験場が単独で指導    | 108 | 11.3 | 58  | 12.5 |
| 父兄同伴の時は単独で指導 | 131 | 13.7 | 71  | 15.3 |
| その他          | 36  | 3.8  | 18  | 3.9  |

◆問8 期待する教科について

緑の学習にどのような教科を希望しているかをみると、いずれも約40～50%で大差ない回答率となっている(表-8)。したがって、カリキュラムを作成するにあたっては、対象とする児童・生徒や学習時間によって教科の適宜な選択を行って差支えないと考えられる。

表-8 期待する教科(複数回答)

| 教科                 | 小学校 |      | 中学校 |      |
|--------------------|-----|------|-----|------|
|                    | 学校数 | 割合   | 学校数 | 割合   |
| 森林の働きなど一般的な学習      | 492 | 51.4 | 239 | 51.6 |
| 虫、草花、木、動物などの生態     | 564 | 58.9 | 250 | 54.0 |
| 森林浴、登山、キャンプなど森林の利用 | 371 | 38.7 | 187 | 40.4 |
| 森林の育て方など体験学習       | 441 | 46.0 | 228 | 49.2 |
| その他                | 3   | 0.3  | 0   | 0    |

◆問9 学習の対象

学習効果を高めるために、その対象をどうすべきかについて質問したところ、「小学生、中学生ともに対象」とする回答が約76%を占めている(表-9)。その理由として、緑に関して基礎からある程度高度な知識を習得させるためには、小中学校を通じて十分学習する必要があることがあげられている。

表-9 学習の対象

| 対象    | 小学校 |      | 中学校 |      |
|-------|-----|------|-----|------|
|       | 学校数 | 割合   | 学校数 | 割合   |
| 小学生のみ | 158 | 16.5 | 72  | 15.6 |
| 小・中学生 | 725 | 75.7 | 341 | 73.7 |
| 中学生のみ | 29  | 3.0  | 21  | 4.5  |
| その他   | 5   | 0.5  | 2   | 0.4  |
| 無回答   | 41  | 4.3  | 27  | 5.8  |

◆問10 林業試験場の利用について

緑の学習を実施するにあたって、「林業試験場の利用を希望している」学校は、小学校701校(73%)、中学校259校(56%)で、これまで「緑の学習をしたことがある」小中学校(表-1)を15～22ポイント上回っている(表-10)。

表-10 林業試験場の利用

| 項目 \ 学校別         | 小学校    | 中学校    |
|------------------|--------|--------|
| 林業試験場の利用を希望する学校数 | 701    | 259    |
| 推定人員(人)          | 25,000 | 55,000 |
| 対象人員/1校当たり(人)    | 178    | 211    |
| 学習時間/1回当たり(時間)   | 3.5    | 4.4    |

これは、小学校単位では指導体制や学習施設が整備されていないことを示していると考えられる。

また、これらの対象となる児童、生徒数は小学生125千人、中学校55千人と推定される。1回当たりの学習時間は、小中学校ともおよそ半日位であるが、なかには1日または2泊3日の利用を希望している学校もある。

なお、利用の時期については、春から秋までほぼ同じ程度の希望があり、時期的な特徴はみられない。

◆問11 林業試験場の緑の学習についての意見、要望など

この質問には、55件の意見や要望があったが、その主なものは次のとおりである。

○都市近郊では、自然学習などの場が少なくなっており、このような企画に大きな期待をしている。

- 新指導要領（小学校平成4年度，中学校平成5年度）のなかでも体験的な学習活動が重視されており，大変よい企画である。
- 学年や地域に応じた学習内容や指導方法を検討し，学校側と協議してほしい。なお，学校の年間行事計画は2月に決定する。
- 教師に対する研修，指導を希望する。
- パンフレット，スライド，VTRを使った教材などを整備してほしい。
- 林業試験場を利用したいが，距離が遠い。
- 校外活動に参加させる場合の輸送体制，経費，安全対策についての課題がある。
- 大変よい企画であるが，まだ広く知られていない。教育委員会などを通じて周知徹底する必要がある。

#### ま と め

今回の調査は，時間的制約もあって全道212市町村の約50%，105市町村の教育委員会にとどまったが，都市型の市町村に所在する小中学校について一応の傾向を知ることができた。

緑の学習については，現実には指導者や教材，施設などいくつかの課題をかかえているが，かなりの学校がその必要性を認めている。

また，林業試験場が企画している緑の学習に対しても，大きな期待が寄せられていることがわかったので，次のような課題・要望を十分に検討し，森林教養講座の充実を図る必要がある。

- 1 学校教育との調整
- 2 教材の整備
- 3 全道的な要望に対する時期的な調整にどう対応するか
- 4 林業試験場や地域の森林施設の有効活用
- 5 インストラクターの養成

（主任林業専門技術員）